

スマート市役所推進事業（ワンストップ窓口、スマートシティ、DX関連）

アナ： 「市長が語る 2023 三島」第6回の今日は、「スマート市役所推進事業」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願いします。

市長： よろしく申し上げます。

アナ： 三島市は令和元年に「スマート市役所」の実現を宣言されておりますが、「スマート市役所」とは一体どういったものでしょうか。

市長： 三島市は、デジタル技術やデジタル情報を積極的に利活用する「デジタル・ファースト」により、質の高い市民サービス、生産性の高い行政運営、産官学民が連携した生産性の高いまちづくり、を進める「スマート市役所」の実現を宣言しました。

近年は、IoT、AI、ビッグデータなどのデジタル技術の飛躍的な進化の恩恵を受けて、便利になった暮らしを多くの方が実感しているのではないかと思います。

市といたしましても、デジタル技術を庁内の業務やまちづくりに積極的に導入することで、市民の皆様がそれぞれのニーズに合ったサービスを選ぶことができ、多様な幸せ「ウェルビーイング」を実現できる社会を目指していきます。

アナ： 社会全体のデジタル化に向けた取り組みは、ますます重要になっていきますね。三島市では、具体的にどのようなことに取り組まれているのでしょうか。

市長： まずは、電子申請やオンライン予約が行える手続きの充実に取り組んでおりまして、マイナンバーカードが必要な手続きは、国が運営しているマイナポータルを利用して、マイナンバーカードを利用しなくてもよいものについては、市が独自の電子申請システムを利用して、オンラインで行える手続きを増やしているところです。

また、昨年「住民異動のデジタル窓口」をスタートし、市民課では、聞き取りをした情報をもとに、職員がデジタルで異動届を作成することで、来庁された方が手書きで記入することを削減しました。

さらに、市内を流れる河川や湧水ポイントに設置したセンサーやカメラから、水位や水質などの情報を収集して、そのデータをインターネット上で公開する「水環境デジタル監視システム」を構築しました。

このシステムでは、市内外の皆様がパソコンやスマートフォンを利用していつでも三島の「水」の状況を把握できるほか、台風や大雨などの際には水位をAIで予測するなど防災面でも活用することで、市民の皆様が安全・安心な生活に結んでいく考えであります。

アナ： 申請や予約がパソコンやスマートフォンからできるのは大変便利ですね。

また、河川の水位などをリアルタイムで把握できることは、防災、減災にとっても役立ちそうですね。

市長： はい。その他にも、今年度は新たな取り組みとして、ウェブサイト上で質問に答えることで必要となる手順がわかる「手続案内サービス」の導入を予定しているほか、市役所窓口での支払いについて、広く普及してきておりますキャッシュレス決済が利用できるよう努めてまいります。

アナ： どんどん便利になりそうですね。
まちづくりでもデジタル化は進むのでしょうか。

市長： はい。三島市は、「スマートシティ推進協議会」を設立しており、現在 68 団体の皆様に加入していただいております。

この協議会は、様々な団体が保有するデータを適正かつ効果的に利活用できる仕組みを会員の皆様と構築し、市の課題解決を目指すとともに、便利で豊かな生活や市内経済の活性化などに欠かせないスマートシティの実現に向けて産官学民が一体となって取り組むことで、活力あふれ、創造性豊かなまちへの発展を目指すことも視野に入れております。

加えて、市民の皆様すべてがデジタル社会の恩恵を受けることができるよう、スマートフォンの使い方や電子申請の仕方など、デジタル活用支援の取り組みにつきましても、引き続き、積極的に行ってまいります。

アナ： 豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。